

<56> 指揮者のために。「遠くの人、もの言わぬ鳩」の調べにのせて。ダビデによる。ミクナム。ペリシテ人がガテでダビデを捕らえたときに。

56:1 神よ私をあわれんでください。人が私を踏みつけ一日中戦って私を虐げているからです。

56:2 私の敵は一日中私を踏みつけています。高ぶって私に戦いを挑む者が多いのです。

56:3 心に恐れを覚える日私はあなたに信頼します。

56:4 神にあって私はみことばをほめたたえません。神に信頼し私は何も恐れませんが、肉なる者が私に何をなし得るでしょう。

56:5 一日中彼らは私のことを痛めつけています。彼らの思い計ることはみな私に対する悪です。

56:6 彼らは襲おうとして待ち伏せし私の跡をつけています。私のいのちを狙って。

56:7 不法があるのに彼らを見逃されるのですか。神よ御怒りで国々の民を打ち倒してください。

56:8 あなたは私のさすらいを記しておられません。どうか私の涙をあなたの皮袋に蓄えてください。それともあなたの書に記されていないのですか。

56:9 そのとき私の敵は退きます。私が呼び求める日に。私は知っています。神が味方であることを。

56:10 神にあって私はみことばをほめたたえます。【主】にあって私はみことばをほめたたえます。



56:11 神に信頼し私は何も恐れませんが、私に何をなし得るでしょう。

56:12 神よあなたへの誓いは私の上にあります。感謝のいけにえであなたにそれを果たします。

56:13 まことにあなたは救い出してくださいました。私のいのちを死から。私の足をつまずきから。私がいのちの光のうちに神の御前に歩むために。

ダビデは苦しみの中において、敵に「踏み」つけられています。そのような中で「肉なる者が、私に何をなし得るでしょう。」「人が、私に何をなし得るでしょう。」と、勇気を持って信仰を宣言しています。

一つには神様が味方だから、その神様よりも人が強いはずかないという事実です。また一つにはたましいに関しては人は無力だということです。ダビデ同様、私たちに関しても、誰もその永遠の命を奪うことはできませんし、主への信仰を奪うことはできないのです。

主の前に人は無力だということを宣言しながら、主に信頼して行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

